



## 第二言語習得研究との出会い

村尾 玲美 (英語教育学)

私が第二言語習得研究に興味を持つようになったきっかけは、英語話者とのこんな些細なやり取りでした。

私“I just took my driver’s license.”

英語話者“Oh, you GOT your

driver’s license!” 留学経験もあり、

英語もそれなりに上級の部類に入る

自分が気付かずに犯していたこの誤り

は一体なんだろう。英語上級者でも

最後まで根強く残る誤りとはどんな

誤りなんだろう。後にこの誤りが軽動

詞と名詞のコロケーションエラーで

あることや、母語からの転移(「免許を

取る)」の可能性が あることなどを学

び、これが私の修士論文のテーマとなりました。日本人が書いた英作文のコーパスを分析すると、検定試験で高得点を取っているような学習者にも“take contact”や“give damage”のような不自然な表現が観察され、文法性判断テストでも、母語の直訳と一致しないようなコロケーションは誤りに気がつきにくいことが分かりました。

博士課程に入ると、研究の関心はコロケーションの習得から、より広い意味での言語の定型性の獲得や、音韻的表象の確立、音韻的处理へと繋がっていきました。現在は言語の定型的知識と音韻的作動記憶容量が聴解力とどう関係するかについて研究しています。文字言語情報と違い、音声言語情報は受け手の処理速度と関係なく、入力と同時に消えていってしまいます。更に、単語の区切りが明確ではありませんし、発音にはバリエーションがあります。このような難解な音声信号に学習者がどう立ち向かい、処理していくかを解明することが、この分野の魅力だと感じています。(写真はBNCのKWIC画面：免許はゲットする！)

British National Corpus (BYU-BNC) [i] [d] [u] [d]

SEARCH	FREQUENCY	CONTEXT
:EM W_ac_numamities_arts	A B C	nao not mentioned the is is prononition when <b>applying for</b> nis <b>license</b> , Uroan <b>reit</b> <b>petrayee</b> on several counts
38 W_misc	A B C	. At present , they pay a flat <b>fee for</b> a <b>license</b> . Such a <b>move</b> , it is suggested , would r
:BN W_biography	A B C	the stalwart Dutch realist ? We have to <b>allow for</b> some <b>license</b> : he <b>is writing</b> to his brother in Paris ab
:7W S_courtroom	A B C	a license and it's up to you to <b>get</b> that <b>license</b> here as quickly as possible ! (SP:F7WPS
:E8 S_interview_oral_history	A B C	. Ah right (SP:PS2UR) Right and they <b>did n't get</b> a <b>license</b> back <b>to</b> the second war . (SP:PS2UP) M
:T1 W_non_ac_tech_engin	A B C	Microsoft's intellectual property rights unless it <b>gets a</b> <b>license</b> <b>from</b> Microsoft , SunSelect says its law
:S1 S_meeting	A B C	ask organisations (unclear) you make it harder <b>for getting</b> a <b>license</b> <b>for street</b> <b>collection</b> , that you tell them
:1J W_newsp_brdsht_nat_report	A B C	legislation . Only the Women's Ministry <b>would be given</b> equal <b>license</b> ; it <b>would be</b> able to ' require each gov
:SS S_conv	A B C	(SP:KSSPSUGP) (unclear) (SP:PS6R8) <b>God television</b> <b>license</b> <b>is due end of</b> month (SP:PS6R9) oh wel
:7W S_courtroom	A B C	Fifty eight . (SP:F7WPSUNK) <b>Have you got</b> the <b>license</b> <b>er</b> (pause) <b>Miss</b> (----) ? (SP:F7WPSUNK)
:E8 S_interview_oral_history	A B C	did n't have a license then , they <b>only got</b> a <b>license</b> <b>after the war</b> you see . (SP:PS2UP) Oh I
:BB S_conv	A B C	somebody advised him (pause) because if it <b>had n't got</b> a <b>license</b> <b>number plate</b> on (SP:PS100) That's it .
:BD S_conv	A B C	. But er , in the end they never <b>got</b> the <b>license</b> <b>back</b> . Because what they did try and d
:CT S_conv	A B C	n't he ? (SP:PS0G0) Yep (pause) he <b>had n't got</b> a <b>license</b> <b>or</b> (SP:PS0FR) (laughing) Poor man ! (SP
:SO S_meeting	A B C	has in Sarouac 10,000 hectares , he <b>is</b> actually <b>got</b> a <b>license</b> <b>out there</b> , and you know that's pretty
:4B W_newsp_other_commerce	A B C	of Ireland in the late 1980s . <b>Marathon was granted</b> a <b>license</b> <b>to drill off</b> Cardigan Bay , two months c
:T5 W_non_ac_tech_engin	A B C	order on its Model 310 . Sun <b>said</b> Axil <b>had</b> no <b>license</b> <b>from Suri</b> <b>to</b> the board . The alleged th

分野・専門紹介—File24

## 国文学と日本文学

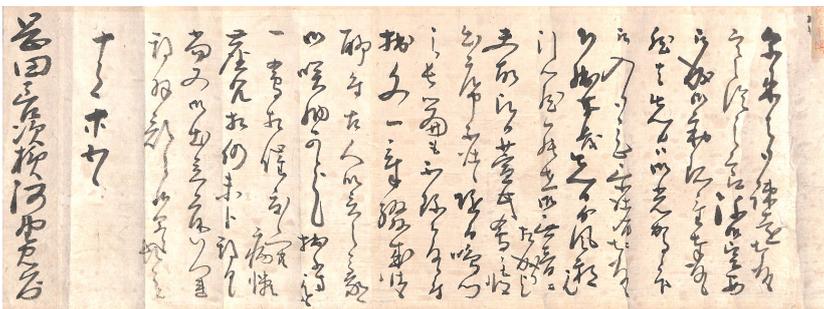
分野・専門名：日本文学

研究室名の「日本文学」は、かつての「国文学」を改称したもので、20年ほど前に全国の多くの大学で同じことが行われた。それは、「国語学」が「日本語学」となったように、国際的な視点を勘案したものだろう。ただ、国文学の場合、そこに無理がないわけではなく、そもそも「国文学」とは国の文学ではなく、漢文の学に対する国文(和文)の学なのだ。ところが、日本文学といえば、誰が見ても日本の文学であって、日本文の学ではない。つまり、改称とともに、研究対象を微妙に変更したと見なすことができる。そのことを踏まえ、日本文学研究室のなすべき仕事を考えたい。

まず、日本文学研究室だからといって、研究対象を所謂「文学」に限定して考えるべきではない。近代以前の日本に「文学」という概念は存在もしなかった。さらに書簡という重要な研究資料も、日本にはなぜか

甚大な量が残されている。あらゆる分野の書物と書簡、つまり〈ふみ〉を取り扱う仕事は、文学研究の任務そのものである。

次に、もと「国文学」だからといって、和文のみならず漢文文献を積極的に読んでゆくことが望ましい。近代以前の日本人の残した書き物の半ばは漢文で書かれているからだ。その際、厄介だったのは表現や故事の典拠の解明だが、中国や台湾で発達した漢籍古書の全文データベースのおかげで、先人の知らぬ快適を得られるだろう。



最近、明治大正の刊行書を含めて、古書や古文書の全文画像データベースが充実しはじめた。それに伴い、閲覧参照資料の範囲が急速に広がりつつある。さらに、日本古書の全文テキストデータベースが充実するにつれて、多くの謎が解明される可能性がある。(塩村 耕・教授) (写真は河野恕齋書簡)

分野・専門紹介—File25

## フランスパンをかじりながら...

分野・専門名：フランス文学第2

この写真は滞在先のパリで撮ったパン屋での光景です。店員さんの話を聞きながら真剣に悩んでいる様子の若い女性。生活、特に食を大切にするフランスの人たちは、主食のパンとなるとそれぞれこだわりが大きいようです。パンが主役となる朝ご飯（フランスではパン、そしてコーヒー、紅茶あるいはショコラといった温かい飲み物が中心で、簡単なものです）となると、同じ家族でもそれぞれのやり方があります。



20世紀の女流作家コレットの『牝猫』という小説の主人公にも子供時代からの無意識の習慣があり、「パンの目という目を全部バターで塗りつぶし」、「牛乳入りのコーヒー茶碗にパンの一片を浸し」、「最初の厚いタルティヌの後には決まって2番目の薄いタルティヌをとり」、「その間に2杯目のコーヒー」に追加の砂糖を入れ、最後に「蜜壺の匙を自由になめ回す」のを楽しみます(川口博訳)。ハーブティーに浸したマドレーヌの一口が壮大な過去の物語を呼び起こす『失われた時を求めて』(プルースト)の例もあります。

外国文学を勉強する楽しみは、自分が生まれる前の時代、住んだことのない国の風土、文化、考え方や感じ方に、文字を通して触れることです。名古屋大学では留学のための支援体制が整い、フランス語圏にも提携校が数多くあります。小説や詩をじっくり読んでその国のことを知ることは、旅立ちの準備としても有効です。私たちの研究室では、フランス語の能力を高め、各ジャンルの文学作品はもちろんのこと、映画、音楽、絵画などの資料も用いながら、フランスとフランス語圏の国々について理解を深めるためのカリキュラムを充実させています。

(加藤 靖恵・准教授)

最近の文学部

### 最近の名大東山キャンパス

豊田講堂と附属図書館の間の通称「グリーンベルト」の新緑が美しい今日この頃、新入生も大学に馴染んできた様子です。1年生の文学の授業を担当していますが、今年を受講生も論述力、読解力が優れ、知識も豊富で、名大文系の底力を感じさせられます。高校での充実した勉学が、大学で出会う新しい学問にも生かされているようです。(YK記)

\*本紙では、名大文学部の多彩な内容を順に紹介していきますが、それまで待てない人は...  
名大文学部のWEBサイト <https://www.hum.nagoya-u.ac.jp/> まで(『月刊名大文学部』のバックナンバーもあります)